



「地域まるごとケアにおける薬局での取り組み」

●話題提供者

丸山薬局 薬剤師 大石 和美さん

地域まるごとケア薬局って？

○地域全てをまるっと「中心」に置いているような薬局



元気な方も全て地域の皆様の健康をトータルにサポート！

(薬局での取り組み)

- ・管理栄養士による栄養相談
- ・フレイル予防（5項目チェック+握力測定（見える化））
 - 連携先の医療機関の運動教室や健康教室へつなげる。
 - 連携先の医療機関で測った血圧が高い
 - 医療機関から処方された薬をもらいに「薬局」へ
- ・出前講座（お薬の話、タイミング等）
- ・職場体験や街歩き探検で子供たちが薬局で学べる。



ポイント

☆本当に大切なものというのは「絆」だと思っています。

ずっと変わらなくて地域の中で築いていく「絆」、それは関係職種だけではなくて、一般の方も地域の住民さんもそのような「絆」が大事なのではないかなと思っています。

その絆があるので、その地域で今何が起こっているのか、どのようなことに私は注力すればいいのか、楽しみながら地域の中を走り回っています。

5月のワーキンググループ会議は、丸山薬局の薬剤師の大石和美さんから、「地域まるごとケアにおける薬局での取り組み」ということで薬局における管理栄養士による栄養相談やフレイル予防やお薬手帳の活用等さまざまな取り組みについてお話いただきました。

講演で本当に大切なものは「絆」だと思っているというお話があり、第1回目につき、第2回でもワーキンググループ会議のテーマとしている「居場所」、「つながり」について、改めて大切であるということへの気付きとなる機会でした。

【参加者の声】

- ・薬局でこういうことをされている、理想形だなと思った。
- ・知恵を出し合って、それぞれの専門職の中で集える場所を作っていくことが、行政の助けにもなるし、地域包括の理想とする姿ではないか。
- ・個人経営薬局がつぶれつつある。コミュニティの薬局を増やしていかなければならない。大きなチェーンの薬局も役割があるので、すみ分けをしていかななくてはならない。
- ・地域の困りごと、どこに誰に頼めばいいか分かりづらいが、チーム永源寺なら分かりやすくなっている。
- ・薬剤師さんであるが、薬剤師という専門職にとらわれず、実際に地域の人間の1人としていろんなアプローチをされていることがいろいろな年齢の方に支持をされて今に繋がっている。
- ・予防、認知症カフェであれば、中々人が集まらない。予防＝不健康というイメージが邪魔しているのではないか、認知症ではないから人が集まらないのではないか。
- ・小学生への出前講座、中学生の職場体験、次の世代を巻き込んでいるので、繋がっていているんだな、と思った。
- ・地域の核となって理想の薬局で処方箋がなくても立ち寄れるっていうような素晴らしい取り組みをされてる。
- ・それぞれ専門職の中で集える場所を作っていくことが、行政を支援することにもなるし、地域包括の理想とする姿になるのではないか。



【次回ワーキンググループ会議】

○日時：令和7年6月26日（木）18:30～20:00

○場所：滋賀県庁新館 7階大会議室（Web参加可）

○テーマ：「誰もが参加できる、新しいスポーツのかたち
～高齢者とeスポーツの可能性～」

○話題提供者：一般社団法人滋賀県eスポーツ協会

代表理事 多賀洋平 さん

医療福祉の地域創造会議 事務局

（滋賀県庁 医療福祉推進課内）

Tel 077-528-3529

e-mail info@chiikisouzoukaigi-s.higa.jp

